

sustainable sanitation alliance

はじめに

世界では26億人の人々が改善された衛生施設にアクセスできず、毎年220万人の人々（主に5歳以下の子供）が衛生に関わる病気と劣悪な公衆衛生が原因で死亡しており、衛生分野における行動が喫緊の課題であることは明白です。

国連は、2000年にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットと、2002年にヨハネスバーグで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議において、貧困撲滅と持続可能な開発を達成することを目標としたミレニアム開発目標(MDGs)をまとめました。水供給と衛生サービスの具体的な目標として、2015年までに安全な飲料水と基礎的な衛生施設を利用できない人々の割合を半減することが掲げられました。

世界保健機関(WHO)と国連児童基金(UNICEF)とのジョイント・モニタリング・プログラムや国連開発計画(UNDP)の人間開発報告書2006が示しているように、実際にはMDGの衛生目標達成に向けた進捗が遅れており、特にサブ・サハラ・アフリカやアジアの一部地域においては、設定目標と現状との間で大きな格差が見られます。

そこには数多くの原因が考えられます。大きな問題としては、衛生が社会にとって重要な問題であるにも関わらず、実際には政治家や市民団体から十分に配慮されておらず、優先課題として扱われていないことがあります。国際開発アジェンダにおいて、衛生を優先課題として扱うことについて、政治的意志が大きく欠如しています。これが衛生を水供給プロジェクト等の陰に追いやり、革新を制限する原因となってきたのです。

2008年を国際衛生年と宣言した国連の決議を機に、衛生分野で活動している中心的な組織によって、国際衛生年を支援するためのタスクフォース結成に関するイニシアチブが取られました。2007年1月に開催された初回会合では、様々な組織からの参加者によってコミットメントが多数発表され、「国際衛生年2008・持続可能な衛生の促進のためのジ

持続可能な衛生の問題 解決に向けて

バージョン1.2 (2008年2月)

ョイント・ロードマップ」の素案が作成されました。4月半ばに開かれた第2回会合では、この国際的なネットワークの目標と目的が明示され、ジョイント・ロードマップのレビューが行われました。

私たちは、計画されている活動に共通のラベルを掲げて、潜在的なイニシアチブと協調するために「持続可能な衛生連合(SuSanA)」を立ち上げました。

持続可能な衛生とは？



衛生システムの主な目的は、衛生的な環境を整え、病気の悪循環を絶つことによって、人間の健康を守り向上させることです。衛生システムが持続可能であるためには、経済的に持続可能であり、社会的に受け入れられやすく、技術的にも制度上にも適切であるだけでなく、環境や天然資源を保護するものでなければなりません。既存の衛生施設を改善し、新しい衛生システムをデザインする際には、以下の観点から持続可能性に関する基準を考慮する必要があります。

(1) 健康と公衆衛生：トイレから回収・処理システムや再利用・施設等、全ての衛生システムの拠点や下流域住民に対して、公衆衛生上、影響を及ぼす可能性のある病原菌や有害物質にさらされるリスクを含みます。また、適当な衛



SuSanA
持続可能な衛生の問題解決に向けて
バージョン 1.2 (2008年2月)

生システムの設置によりもたらすことのできる、公衆衛生、栄養、生活の改善やそれに伴う効果なども含まれます。

(2) 環境と天然資源：衛生システムの建設や運営管理に必要なエネルギー・水・その他の天然資源や滞在的な環境への負荷に必要とされるエネルギーや水、その他の天然資源を含みます。また、実際のリサイクルや再利用の割合およびその効果（例：汚水の再利用、栄養物・有機物の農地への返還）、再生可能なエネルギー（バイオガス等）の生産を通じた、他の再生不可能な資源の保護等を含みます。

(3) 技術と運営：その土地のコミュニティや施設の技術管理者により、回収、運搬、処理、再利用または最終的な処分を含む全体のシステムが設置、稼働、モニターされる場合には、それに伴う機能性や容易さを意味します。さらに、システムの構造安定性、停電・水不足・洪水等に対する脆弱性、そして、既存のインフラや人口統計的・社会経済開発に対するシステムの技術的要素の適応性と柔軟性も評価すべき重要な側面です。

(4) 財政・経済問題：システムの建設・運営・維持管理や必要な再投資を含む、衛生に対する世帯やコミュニティの支払い能力に関係します。これらの直接経費の他、リサイクル製品（土壌改良剤、肥料、エネルギーや再生水）からの実益や外部費用便益も考慮する必要があります。そのような外部費用として環境汚染や健康被害があり、外部便益として農業生産性の向上、自給自足経済、雇用創出、健康改善と環境リスクの軽減があります。

(5) 文化社会制度概観：システムの文化社会的許容と適性、利便性、認知度、ジェンダー問題や人間の尊厳への影響力、食糧安全保障への貢献、法的枠組の遵守や安定した効率的な制度について評価します。

ほとんどの衛生システムはこれらの観点を考慮してデザインされていますが、実際には、幾つかの基準が満たされないために、たびたび失敗に終わることがあります。その証拠に、完全に持続可能な衛生システムというものは、おそらく存在していないのです。持続可能性の概念は、到達すべき段階というよりも、むしろ方向性を示すものです。それでもなお、持続可能性におけるあらゆる局面から、衛生システムを注意深く評価する必要があります。どのような状況においても同様に持続可能性の基準を満たすことのできる、衛生に関する完璧な解決策は存在しないことから、



衛生システムの評価を地域の枠組によって変えるとともに、既存の環境・技術・文化社会・経済状況を考慮して行う必要があります。持続可能性の全ての基準を考慮する際には、衛生システムの計画・実施に関する基本原則に注意することが重要になります。下記の原則は、数年前に専門家グループにより提案され、2000年11月に開催された第5回グローバルフォーラムにおいて、「持続可能な衛生のためのベラジオ原則」として、水供給衛生協調会議(WSSCC)のメンバーにより支持されたものです。

- (1) 衛生に関する如何なる手法においても、世帯レベルで、人間の尊厳、生活の質、環境安全保障が中心に置かれなければならない。
- (2) 良いガバナンスの原則に則り、意志決定には、サービスの消費者と提供者を含む全てのステークホルダーを巻き込むべきである。
- (3) 排泄物は資源として考えられるべきであり、包括的な統合水資源・培養液・排泄物管理の一環として取り入れられるべきである。
- (4) 環境衛生問題を解決する定義域は、実施される最小限の大きさに留めるべきである（世帯・近所・コミュニティ・町・地区・管轄区域・都市）。

「持続可能な衛生連合(SuSanA)」の 目標と目的：

SuSanAの全体的な目標は、持続可能性におけるあらゆる側面を考慮した衛生システムを確立することにより、MDGsの





達成に貢献することです。SuSanAは、MDGsと国際衛生年により、衛生が政治アジェンダの上部に押し上げられていることを大いに評価しています。SuSanAの活動の焦点は、WHO、UNDP-PEP、UNSGAB、UNESCO等が提案している戦略に則って、大規模な水・衛生プログラムにおいて持続可能な衛生施設の確立を促進することです。



SuSanAの一般的目的は：

- 持続可能な衛生のための手法に対する世界的な認識を高め、その普及を十分に促進すること
- 全てのMDGsを達成するための前提として、持続可能な衛生システムが如何に重要であることを強調すること。
(例：幼児死亡率の削減、ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上、環境の持続可能性の確保、生活向上、貧困削減)
- 全てのステークホルダーの早期参加を調整した上で、どのように持続可能な衛生プロジェクトが計画されるべきであるか、利用者の取り組みや選択に対してどのように対応するか、そして、プロジェクトが公衆衛生の改善や、持続可能な水・廃水管理における人材育成のための活動と連動して行われるべきであることを明示していくこと。

SuSanAの具体的目的は：

- 意志決定者が、持続性の全ての基準項目をもって異なる衛生システムや技術を評価できるように、情報を収集し、情報に基づく決定を促進すること。
- 土壌改良剤、肥料、バイオガス、エネルギー、灌漑用水

を生産する衛生システムが、どのように衛生分野以外のMDGsの達成にも貢献し、その結果として、完全処理型から再利用型へのパラダイムの変化を導くかについて、実証すること。

- 「2008国際衛生年」とそれ以降に向けて、衛生分野における「賢い実践」事例を収集し提示すること。
- 貧困層を対象とした衛生施設設置のための適切な資金調達手段を含む、より持続可能な衛生システムを実施するためのメカニズムを特定し説明すること。
- 持続可能な手法が、どのように衛生に関するMDGの達成に貢献するかについて、世界的・地域的ビジョンを展開し、「2008国際衛生年」とそれ以降においてそのビジョンを普及させること。

どのように目的を達成するか？ ジョイント・ロードマップ

2007年1月と4月に開かれた会合において、30以上の国際・二国間組織、NGOs、研究機関からの参加者が、IYSに向けた持続可能な衛生に関する活動のジョイント・ロードマップを作成しました。このロードマップは、主にテーマ別作業部会の活動で構成されており、持続可能な衛生に関する出版物の共同制作、国際イベントの開催や支援、新しい資金調達手段および持続可能な衛生に関する人材育成・プログラムへの取り組みへの貢献を含みます。

SuSanA はパートナー組織を募集しています

SuSanAは新しく設立された組織ではなく、衛生分野等で活動している既存の組織による緩やかなネットワークです。持続可能な衛生システムの普及に積極的に参加する意向のある組織に開かれたネットワークです。Sustainable Sanitation Allianceは、国際・地域・地元組織のネットワークに参加し、アイデアを提供し、テーマ別作業部会への積極的な参加を求めています。ジョイント・ロードマップの進捗状況は随時更新し、持続可能な衛生システムの普及に向けた全ての協同活動を包括する予定です。ジョイント・ロードマップの改訂のためのフィードバックも歓迎します。





参考文献

GTZ (2003): “10 Recommendations for Action from the Luebeck Symposium on ecological sanitation, April 2003.”
<http://www.gtz.de/de/dokumente/en-ecosan-recommendations-for-action-2003.pdf>

IWA (2007): Sanitation21 – simple approaches to complex sanitation. A draft framework for analysis,
<http://www.iwahq.org/uploads/iwa%20hq/website%20files/task%20forces/sanitation%2021/Sanitation21v2.pdf>

SEI (2005): “Sustainable pathways to attain the Millennium Development Goals - Assessing the role of water, energy and sanitation”
http://www.ecosanres.org/pdf_files/MDGRep/MDG_folder.pdf

SuSanA (2007): Joint roadmap for the promotion of sustainable sanitation in the UN’s “International Year of Sanitation 2008”
<http://www2.gtz.de/Dokumente/oe44/ecosan/nl/en-susana-joint-road-map-iyos-2008.pdf>

UNDP HDR (2006): Human Development Report 2006 - Beyond scarcity: Power, poverty and the global water crisis.
<http://hdr.undp.org/hdr2006/pdfs/report/HDR06-complete.pdf>

UNDP PEP (2006): “Poverty Environment Partnership Joint Agency Paper on Poverty Reduction and Water Management”
http://www.who.int/entity/water_sanitation_health/resources/povertyreduc2.pdf

UNESCO-GTZ (2006): “Capacity building for ecological sanitation.”
<http://www2.gtz.de/Dokumente/oe44/ecosan/en-ecosan-capacity-building-2006.pdf>

UNSGAB (2006): The Hashimoto Action plan http://www.unsgab.org/Compendium_of_Actions_en.pdf

WHO (2006): Guidelines series on the safe use of wastewater, excreta and greywater in agriculture and aquaculture.
http://www.who.int/water_sanitation_health/wastewater/gsuww/en/index.html

WSSCC/Sandec (2000): The Bellagio Statement on Sustainable Sanitation:
http://www.eawag.ch/organisation/abteilungen/sandec/publikationen/publications_sesp/downloads_sesp/Report_WS_Bellagio.pdf

sustainable sanitation alliance



© Sustainable Sanitation Alliance

全てのSuSanAの資料は、人材育成が目的であり非営利の場合、オープンソースコンセプトに基づき、使用する際に適切に出典が明記されていれば自由にご利用いただけます。使用者は、必ず原作者のクレジット、出典、著作権所有者を明記して下さい。



SuSanA
 持続可能な衛生の問題解決に向けて
 バージョン 1.2 (2008年2月)